

授業科目名	日本教育史
科目番号	CB22021
単位数	2.0 単位
標準履修年次	2 年次
時間割	通年 集中
担当教員	平田 諭治
授業概要	時代状況と関連づけながら、近代以降「教育」に枠づけられる、人間形成の展開・構造・特質を探究する。日本の「学校」の位相を中心に、テキストを用いて通史的に検討・考察する。
備考	オンライン(同時双方向型)
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	教育学の基礎的体系的知識、教育学における総合的思考力、教育学に関する先導的発信力
授業の到達目標(学修成果)	日本教育史の基礎的知見を習得するのが第一のねらいであり、歴史的視野から教育や学校について思考し、展望することの意義が理解できるようになるのが目標である。
授業計画	<p>時代状況と関連づけながら、近代以降「教育」に枠づけられる、人間形成の展開・構造・特質を探究する。日本の「学校」の位相を中心に、テキストを用いて通史的に検討・考察する。受講者による発表・討議形式を中心に行う。</p> <p>初回時に授業の説明、教科書の紹介、発表担当の決定、受講アンケートなどを行うので、必ず出席すること(欠席者は、以降の受講を認めない)。</p> <p>第1回 ガイダンス 第2回 世界と日本の教育(近代) 第3回 世界と日本の教育(現代) 第4回 読み書き(前近代) 第5回 読み書き(近代) 第6回 就学(前近代) 第7回 就学(近代) 第8回 学校と地域(近代) 第9回 学校と地域(現代) 第10回 近代天皇制と教育 第11回 現代天皇制と教育 第12回 言語と教育(近代) 第13回 言語と教育(現代) 第14回 戦争と学校・教育(近代) 第15回 戦争と学校・教育(現代) 第16回 教師と子ども(近代) 第17回 教師と子ども(現代) 第18回 子どもを取り巻く教育問題(近代) 第19回 子どもを取り巻く教育問題(現代) 第20回 総括と課題</p>
履修条件	
成績評価方法	授業への取り組みと参画姿勢を考慮したうえで、毎時の課題達成度によって評価する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	毎回テキストの予習と事前準備が必須である。
教材・参考文献・配付	テキスト：平田諭治編著『日本教育史』MINERVAはじめて学ぶ教職第4巻，ミネルヴァ書

資料等	房, 2019年(必携)
オフィスアワー等(連絡先含む)	事前にメールで連絡すること hirataug at human.tsukuba.ac.jp
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	受講者は主体的かつ積極的なとりくみが求められ,原則として欠席は認めない(正当な事由のある場合は,それを明記した欠席届を提出すること)。歴史に強い興味・関心のある者や,高等学校等での日本史履修者が適している。受講者数が多い場合,2年次以外は受講制限を加えることがある。試験の代替措置等は一切行わない。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	日本, 教育, 学校, 近代, 歴史